

社会学部社会学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

社会学部社会学科は、問題の発見、多様性への理解、実証的調査能力、理論的な思考、社会を構想し提言する能力などを備え、現代社会の構成員として一定の役割を果たせる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学部社会学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（社会学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 外国語や情報処理、社会人としての一般教養にくわえ、社会学の基本的な知識および、社会調査にかんする知識や調査実施の経験を有している。
- (2) 社会学のほかに、法律学や経済学など隣接学問分野にかんする広範な知識を有している。
- (3) 社会現象や社会の諸問題を分析するためのデータ処理等にかかわる技能を有している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 当事者として考え、他者と自己を尊重しながら問題解決を模索することができる。
- (2) 地域における社会問題を解決し、地域住民とともに新たな社会を構想することができる。
- (3) 社会現象を分析し、問題の解決に向けての提言を効果的に発信することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 演習や卒業研究（卒業論文または卒業作品）を通して、社会的に意義のある研究テーマに能動的・主体的に取り組み、将来に活かす意欲がある。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 多様性がもたらす豊かさとともに、そこから生ずる諸問題についての知識を有している。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学部社会学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) 全学共通科目

豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の科目を設ける。

(2) 基礎教育科目

英語、フレッシュマンセミナーなどを通して、社会生活に必要なコミュニケーション能力や協調性を養う。出来る限り専門教育科目との関連性を持たせ、学習意欲を高める。また、さらなる英語力の向上のための科目（選択必修科目）および英語以外の未修学外国語科目（選択科目）を設ける。

(3) 専門教育科目（演習）

社会学を学ぶ学生に相応しいリテラシーを育成するため、基本技術の習得から始めて、演習を各学年に必修科目として設ける。

(4) 専門教育科目（コース制）

専門的知識の修得と実践的な思考を養うために、十分な専門科目（選択必修科目）を配置するとともに、2 年次から「多文化と共生コース」「都市と地域コース」「メディアと情報コース」を設けて、各コースに関係する専門科目を体系的に配置する。

(5) 専門教育科目（社会調査関連）

1・2 年次に、社会学の基礎知識や方法論を培うための理論と分析のためのツールを修得する社会調査関連科目「社会調査 I・II」「社会統計入門」を設ける。さらに、2 年次以降に「社会調査士」資格の取得に必要な科目を設ける。

(6) 専門教育科目（心理学関連）

マーケティング分野や教育福祉の現場で求められる人材に必要とされる心理学関係の科目「社会心理学」、「産業心理学」などを設ける。データの裏付けを基に、人間の行動や心理を理解するための手法を学べると同時に、「認定心理士」資格取得の可能性にも配慮する。

(7) 専門教育科目（卒業研究）

社会学部における学修の集大成として、必修科目で卒業研究（卒業論文または卒業作品）を設ける。

(8) 問題発見・解決型学習（PBL）科目

地域社会との繋がりや企業・行政・諸団体等における就業体験などのアクティブ・ラーニングを通して、問題発見・解決にかかわる能力の向上・修得をめざした「社会調査実習」「国内研修」「海外研修」「インターンシップ」「社会活動」などの科目を設ける。

2. 教育方法

(1) 1 年次より少人数のゼミの履修を必修化し、双方向性のある教育を行う。

(2) モバイル PC によって使用場所に制約されない学習支援環境を整え、ICT を有効に活用した授業を行う。

(3) 主体的な学びを促進するために、一部基礎教育科目と専門科目においてアクティブ・ラーニングを通じた問題発見・解決型学習（PBL）を取り入れる。

(4) 社会調査、社会活動、インターンシップ、国内研修、海外研修、国内留学等の実地・現場体験を重視した実習・研修科目の受講を推奨する。

(5) キャリア形成を目指した支援科目や社会調査士および認定心理士資格取得科目等の受講を推奨する。

3. 評価方法

(1) 学位授与方針で掲げた能力の形成を、社会学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し評価する。

(2) 4 年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業研究の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学部社会学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 社会学を学ぶのに十分な日本語および外国語能力、現代社会に関する基礎知識、その他高校 3 年までに習得しているべき基礎的な学力を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 自分と社会との関係性という視点から物事を考えることができる。
- (2) 他者を尊重し、その意見などに真摯に耳を傾けつつ、自分自身の意見や考えを積極的に表現することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 新しい社会のあり方について、強い興味と関心がある。
- (2) 身近な社会問題や地域の課題について、積極的に、主体的に探究しようとする意欲をもっている。
- (3) 現代社会に氾濫するメディア、各種データなどから必要な情報を選択し、活用しようとする意欲をもっている。

社会学部社会学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験 英語民間試験スコア	●		
一般選抜 (英語民間試験活用総合評価型)	英語民間試験スコア	●		
	課題論文		●	●
総合型選抜	調査書 等	●		
学校推薦型選抜	英語民間試験スコア	●		
特別選抜	課題	●	●	
	小論文	●	●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●
※選抜方法は入試方式で異なる				